

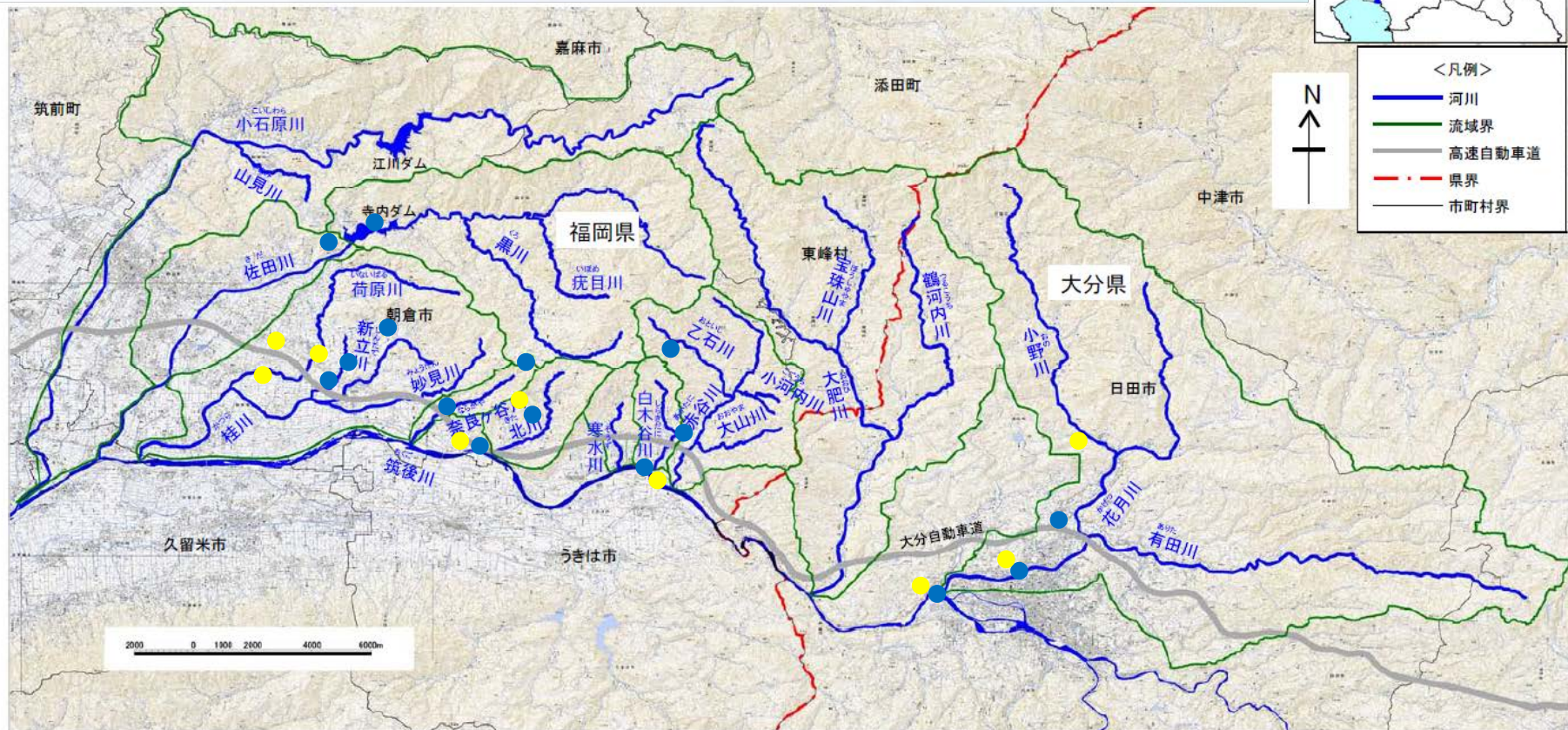
平成29年7月 九州北部豪雨 現地調査(その2)概要

平成29年10月

一般財団法人 国土技術研究センター

調査位置

- 平成29年7月九州北部豪雨により、福岡県と大分県の両県では河川の氾濫、斜面崩壊が各所で発生し、氾濫流に乗って多量の土砂と流木が市街地に流入・堆積する甚大な被害となった。
- 本調査は、自主研究「災害調査」として、流域を含めた被害と復旧の状況についてフォロー調査を行ったものである。



●:7月調査位置 ●:10月調査位置

花月川の状況

- H24.7激特工事済み区間についてほとんど被災なし。
- 溢水箇所は11カ所に上る。(筑後川河川事務所より)
- 土砂の堆積は大きくなく、洪水による被害と考えられる
- JR久大本線は来年度夏を目指して復旧予定

花月川の航空写真(国土地理院:平成29年7月7日～13日撮影)

赤矢印は溢水箇所を表す。



①筑後川合流点付近被災状況



①筑後川合流点付近復旧状況



②JR久大線鉄道橋 被災状況



②JR久大線鉄道橋 撤去状況



※空撮は国土地理院

赤谷川の状況

- 赤谷川は権限代行により筑後川河川事務所が応急復旧実施中。
- 氾濫河道をそのまま使用。(元河道の掘削は行っている)
- 掘削は土砂の流入を考慮して薄く全川掘削
- 遊砂地や輪中堤(土囊)を考慮している。



①氾濫前の川道



②氾濫後川道



③輪中堤



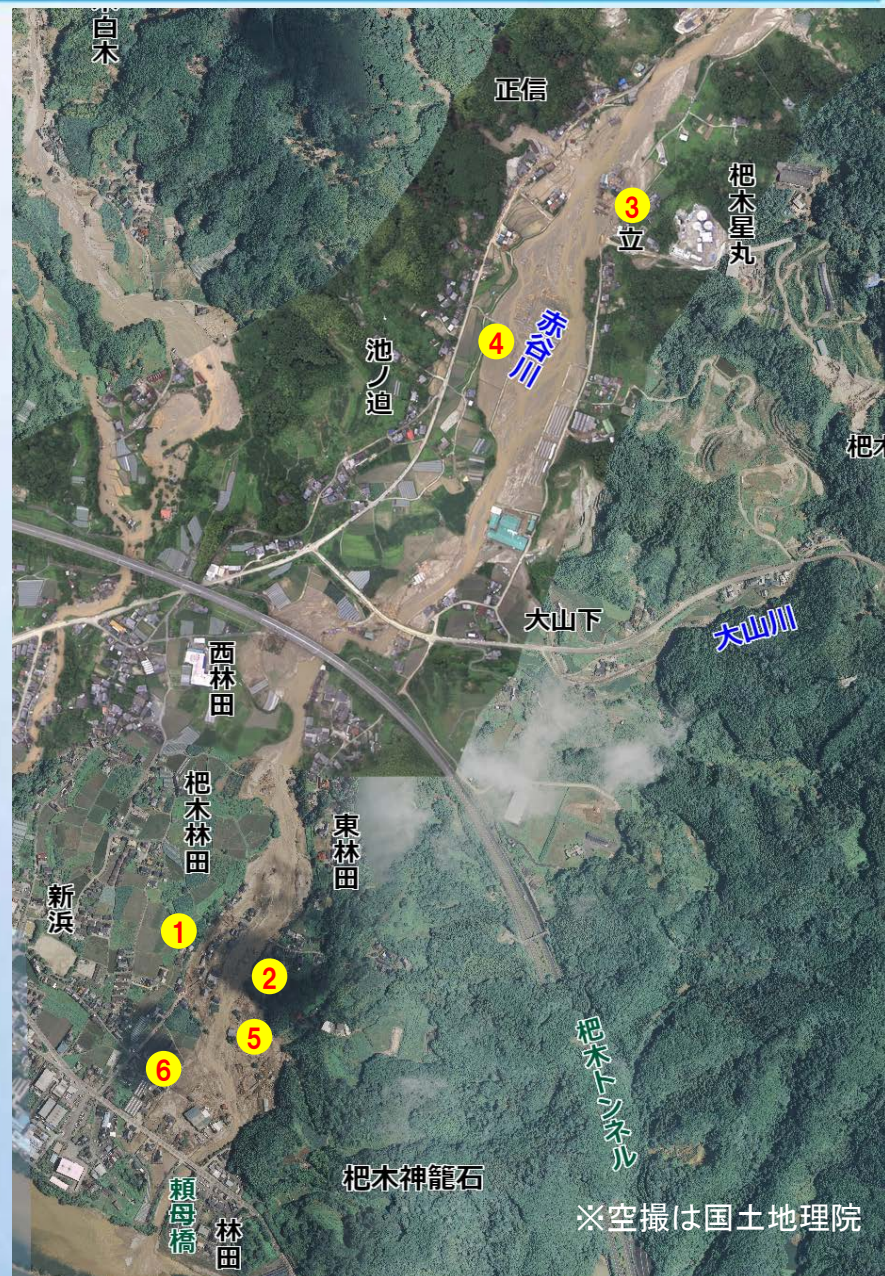
④遊砂池



⑤薄い河道掘削



⑥被災家屋



※空撮は国土地理院

赤谷川右支川乙石川の状況

- 谷底の河川は、流出土砂で埋め尽くされている。
- 斜面の崩壊は至る所に見られる。
- 堆積土砂は所謂「マサド」であり、花崗岩が風化したもの。
- 家屋は土砂と流木による崩壊と考えられる。
- 準備工としての工事用道路が、生活道路を兼ねている。
- 土砂の撤去をどのように考えるか今後の課題



①崩壊斜面



①崩壊家屋



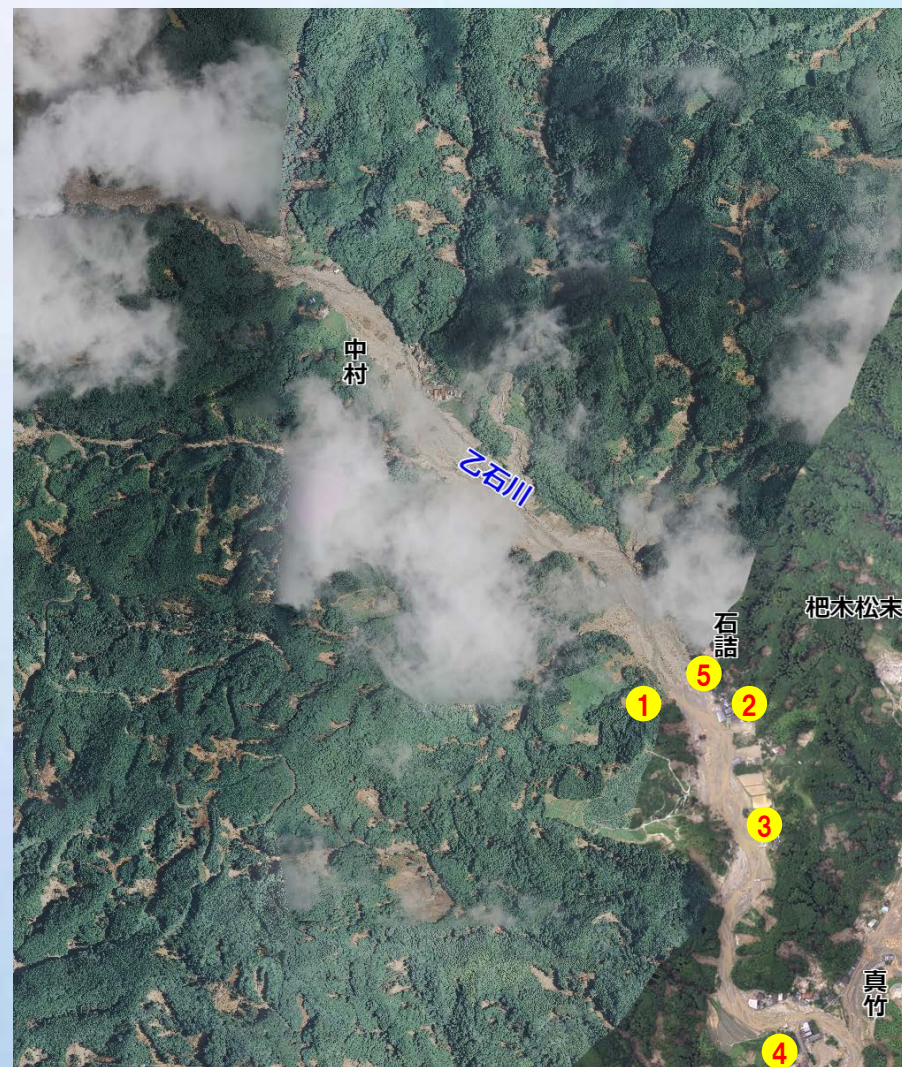
③工事用仮設道路



④末松小学校土嚢対策



⑤マサドの状況



※空撮は国土地理院

北川の状況

- 下流部の河道は確保されていたが、道路や水路を確保するために掘削された土砂が高く積まれていた。
- 上流部の人家は応急復旧の土嚢が積まれていたが、河道の確保は今後の課題である。



①下流部河道掘削状況



②道路確保状況



③掘削土砂の仮置き



④上流部家屋保護状況



※空撮は国土地理院

奈良ヶ谷川 溜池の状況

- 下流の溜池は土砂が満杯状況
- 上流の溜池は、溜池の堰堤が壊され、下流へ土砂が流出したと思われる。
- 護岸や過去への被害が生じている。



①下流溜池の堆砂状況



②上流溜池の堰堤崩壊



③崩壊溜池上流護岸及び家屋損傷



④道路兼用堰堤の崩壊



※空撮は国土地理院

桂川の状況

- 桂川の河岸沿いの学校の護岸は応急復旧済み。
- 上流部民家の河岸についても応急復旧済み。
- 上流端は平坦に堆積している。
- 赤谷川の「マサド」とは、材料や粒径が異なる。



①学校の護岸応急復旧済み



②民家の護岸も応急復旧済み



③桂川上流端土砂堆積状況



④堆積物は赤谷川と違う



※空撮は国土地理院

寺内ダム状況

- 寺内ダムは、2万 m^3 の流木が堆積。(撤去済み)
- 洪水は、計画300 m^3/s に対して3倍の約900 m^3/s が流入。下流放流量は120 m^3/s で放流。
- 濁水であったため、計画貯留量700万 m^3 に対して1,170万 m^3 の貯留を行ことができた。
- 堆積土砂については、現在測量中であり、今後の課題となる可能性が大きい。
- ダム湖岸の朝倉市占用の公園は、流木置き場として使用。チップ化を行っている。(根の部分は処分)
- ダムの効果により、流木及び洪水の被害は無かった。



流木状況拡大



① 流木除去跡



② 仮置ききの流木 朝倉市より搬入



③ 寺内ダム下流佐田川



④ 寺内ダム堰堤

※空撮は国土地理院